

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	26000012	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	健康長寿のための普遍的代謝調節経路の包括的・発展的研究		
研究代表者名 (所属・職)	門脇 孝 (東京大学・医学部附属病院・教授)		

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(評価意見)		
<p>本研究においては、アディポネクチン受容体1及び2の立体構造を明らかにしたこと、アディポネクチン受容体及びその活性化が内膜肥厚改善や抗糖尿病作用に関与することを見出したこと、その後、腸炎発症マウスでは栄養素の質の違いだけで生存率を低下させること、アディポネクチン受容体1及び2が脂質を加水分解する機能を持つことを示し、順調に研究成果を上げている。</p> <p>しかし、栄養素の黄金比の解析、カロリー制限による寿命延長のアディポネクチンやその受容体と関連したメカニズムの解析及び当初の研究目的、研究計画である有機的関連付けに進展の遅れ等が認められるため、進展していない部分については今後努力が必要である。</p>		

【令和2(2020)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	<p>これまでにアディポネクチン受容体1及び2の遺伝子単離に成功した研究代表者は、本研究において、これらの受容体の立体構造を明らかにするとともに、脂質を加水分解する機能を有することを見出し、さらに、遺伝子改変動物を用いた研究により、アディポネクチン受容体及びその活性化がインスリン抵抗性の改善や寿命の延長化に寄与することを明らかにするなど、アディポネクチン受容体の構造・機能・病態との関連に関する全体像がかなり明らかにされた。</p> <p>しかし一方で、当初の研究目的及び研究計画である栄養素の黄金比の決定、栄</p>

養シグナルとアディポネクチン研究で明らかにされた寿命シグナルの統合的解析、アディポネクチン受容体活性化薬の前臨床試験に向けた展開、などに進展の遅れが認められた。